

授業科目の概要

(医療専門課程 理学療法学科 夜間部) 令和6年度															
分類			授業科目名	教員名・授業科目概要・目的	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎理化学	加藤幸弘 理学療法士として30年間(総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年)の実務経験を活かした授業で、理学療法士に特に必要となる力学について物理学的な基礎知識から学び、また人体の基本的な関節運動のメカニズムを理解し関節運動を表現できるようにする。	1前	30	2	○			○		○		
○			コミュニケーション論	吉川将太 医療従事者のコミュニケーションは、チーム医療の要であり、患者とのコミュニケーションは、治療効果や患者満足度に大きな影響を与える。本科目では、理学療法士として一般病院1年と診療所10年間の実務経験を活かした授業で、コミュニケーションの基本的スキルを身につける。また傾聴の意味を理解し、医療人として必要な基本的態度を学び、コミュニケーション能力を身につける。	1前	15	1	○			○		○		
○			情報統計論	姉帯飛高 理学療法士として5年間(一般病院2年、介護老人保健施設3年)の実務経験を活かした授業で、1)レントゲン、CT、MRI等より得られた画像から必要な情報を抽出し、解釈・応用する方法を実践的に学習する。2)研究方法や統計データの取り扱いについて学び、文献検索と客観的・批判的精読を通じて情報を取捨選択する過程を学習する。3)文献抄読会を行い、パソコンの基本操作やプレゼンテーションの基礎を理解する。	1通	30	2	○			○			○	
○			心理学	新保忍 クライアントの状態は、「total person」の観点から理解する。そのためには、クライアントの人格、能力、発達段階、置かれている状況などをアセスメントする必要がある。さまざまな心理アセスメント方法を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			人間発達学	小松昌久 理学療法士として肢体不自由児施設22年、小児専門病院3年の実務経験を活かした授業で、胎児期から老年期に至る人間の発達を通し、各発達段階における心身の成長および運動獲得について学ぶ。	1後	45	3	○			○			○	
○			基礎運動学	加藤幸弘 理学療法士として31年間(総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で10年)の実務経験を活かした授業で、筋骨格・関節運動学などの基礎的知識から、人の基本的動作の構成、歩行、運動を継続する仕組みについて解剖学、生理学、その他の基礎医学での知識を統合して学習を進めていく。	1前	30	1			○	○			○	

○		生活環境論	植竹教嗣 理学療法士として6年間(一般病院で3年、介護老人保健施設で3年)の実務経験を活かした授業であり、障害の有無に関わらず人が生きていく上で最も身近で、基本的に存在する生活環境を学ぶ。障害者や高齢者が、回復・維持された身体機能を有効に活用するためには、社会的環境に広く目を向けることは重要である。生活環境論では、そのための基本的な理念と知識について学習する。	1 後	60	4	○			○			○					
○		人体構造機能学Ⅰ	熊澤真理子 理学療法士として治療を行なうためには、人体に関する必要な知識を学ぶことは必要不可欠である。そこで、人体の構造と仕組み・機能について理解することを目的とする。	1 前	30	2	○			○								○
○		人体構造機能学Ⅱ	姉帯飛高 理学療法士として5年間(一般病院2年、介護老人保健施設3年)の実務経験を活かした授業で、運動器(骨・関節・靭帯・骨格筋)それぞれの解剖学的特徴から、それらの機能を理解する。	1 前	30	2	○			○								○
○		人体構造機能学Ⅲ	姉帯飛高 理学療法士として5年間(一般病院2年、介護老人保健施設3年)の実務経験を活かした授業で、中枢神経系と末梢神経系の基本構成について学習し、これらの疾患に応用する基本的知識を習得する。	1 前	30	2	○			○								○
○		人体構造機能学Ⅳ	姉帯飛高 理学療法士として5年間(一般病院2年、介護老人保健施設3年)の実務経験を活かした授業で、循環器、呼吸器、消化器、泌尿生殖器の基本構造を学び、これらの疾患に応用する基本的知識を習得する。	1 前	30	2	○			○								○
○		人体構造機能学Ⅴ	植竹教嗣 理学療法士として6年間(一般病院で3年、介護老人保健施設で3年)の実務経験を活かした授業であり、人体構造機能学で学ぶ筋・骨・神経や運動学について、動画コンテンツやアプリケーションなどのオンデマンド授業を通じて、理解を深めていく。	1 前	90	6	○			○								○
○		精神疾患論	神保忍 理学療法の実施にあたって、根幹となる精神障害者の心理および行動特性を理解しておくことが重要である。精神障害をもたらす精神疾患の病状・成因や診断・治療について理解し、それらを基に理学療法士としての精神障害者への社会生活面での援助のあり方を習得する。	1 後	30	1	○			○								○

○		多職種連携論	瀬戸勲 患者・家族に対して最適な医療を効率的に提供するためには、職種間協働に基づく「チーム医療」の推進が必要である。理学療法士として5年間(一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年)の実務経験を活かした授業で、健康・医療・福祉の専門職を目指す者として、対象者を中心としたチーム医療の意義、他職種連携を通じた調整や教育的役割を担う能力を学ぶ。	1 前	30	2	○		○	○								
○		理学療法総論	持田誠 理学療法士として一般病院で12年間の実務経験を活かした授業で、生理学や人間発達、精神心理、内部障害について、オンデマンド授業を通じて、理解を深めていく。	1 前	60	2		○		○								○
○		臨床運動学	加藤幸弘 そこで理学療法士として31年間(総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で10年)の実務経験を活かした授業で、基本動作を可能にするメカニズムを理解し、臨床現場で高頻度にみられる逸脱・代償動作観察を行い、原因を推論する能力を学高める。	2 前	30	1		○		○								○
○		日常生活活動学	植竹教嗣 理学療法士として6年間(一般病院で3年、介護老人保健施設で3年)の実務経験を活かした授業で、障害者・高齢者が生活をする地域社会、在宅生活の環境の中でQOLに密接に関わるものであり、リハビリテーションにおける重要な概念を学ぶ。それを理解し、各疾患毎のADL指導の実際について理解を深める。	2 通	90	3		○		○								○
○		理学療法管理学	加藤幸弘 理学療法士として31年間(総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で10年)の実務経験を活かした授業で、地域全体のリハビリテーションに関わる機会が多いため、その拠点となるリハビリテーション科の組織を強化する必要がある。組織の能力を最大限に発揮する具体的な管理・教育について学び、理解を深める。	3 前	30	2		○		○								○
○		理学療法評価法Ⅰ	茂木真 理学療法士として老人デイケア8年間の実務経験を活かした授業で、理学療法評価の意義・目的について学習する。実技を通してバイタル測定、形態測定、関節可動域測定法、徒手筋力検査法を学ぶ。	1 通	120	4		○		○								○
○		理学療法評価法Ⅱ	瀬戸勲 理学療法士として5年間(一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年)の実務経験を活かした授業で、理学療法で実施する各評価の意義と目的、方法と結果の記録について説明する。さらに、各種評価結果の解釈・統合の方法を学び、疾患の症状について理解を深める。またオンデマンド授業を通じて各分野の理解を深める。	2 前	120	4		○		○								○

○	臨床実習Ⅲ	吉川将太 一般病院1年と診療所10年間の実務経験の理学療法士を中心に、医療人としての資質の育成を育み、理学療法士としての業務や役割について理解を深める。また実習施設の機能や特徴を把握し、対象となる方を取り巻く、人との関わりについて考える。様々な対象となる方を通じて基本的な検査項目を臨床実習指導者のもと見学・模倣することで知識や技術の研鑽を行うことを目的とする。	3 前	270	6			○	○	○	○
○	臨床実習Ⅳ	植竹教嗣 6年間(一般病院で3年、介護老人保健施設で3年)の実務経験の理学療法士を中心に、臨床実習Ⅲで学んだ知識や基本的な検査項目の見学・模倣に加え、臨床実習指導者のもと対象となる方への基本的な検査項目の実施及び治療を見学し、医療専門職としての責任ある態度や行動を学ぶ。対象となる方に応じた評価を見学・模倣・実施すること及び基本的な理学療法手段の見学を目的とする。	3 前	270	6			○	○	○	○
○	臨床実習Ⅴ	瀬戸勲 理学療法士として5年間(一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年)の実務経験の理学療法士を中心に、臨床実習Ⅲ・Ⅳで体験した理学療法評価の実施及び基本的な理学療法手段の見学に加え、対象となる方に応じた基本的な理学療法手段を模倣することでさらに自己研鑽することを目的とする。	3 後	315	7			○	○	○	○
合計				44科目		3120単位時間(119単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：本校に3年以上在籍し、全科目を履修し認定を受けること。		1学年の学期区分	2期
履修方法：履修単位制。授業科目を履修して試験に合格すれば科目認定を与えられる。		1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。